

やんばる3村

国頭

国頭村はやんばるの最北端にあり、やんばるで最大かつ最も人口の多い村で、人口は約4,000人です。国頭村には沖縄島で最も高い与那覇岳（503メートル）や、辺戸岬の北端近くにある辺戸岳の浸食された石灰岩が作り出す切り立った崖と凹凸のある地形という、最も印象的な自然景観の一つがあります。この岩石層は、沖縄本島のこの部分を構成するカルスト地形の典型です。国頭村はやんばるの村の中で最も森林が密生しており、面積の84パーセント以上が森林で覆われていますが、険しい海岸沿いの道路からは多くの美しい景色を眺めることができます。何世紀にもわたって、地元住民は森林資源を活用し、木炭、木材、琉球藍の生産を管理してきました。国頭町には日本唯一の飛べない鳥であるヤンバルクイナが最も多く生息数します。保護政策のおかげで、この種の個体数は絶滅寸前の状態からゆっくりと回復しつつあります。

大宜味

大宜味村は、西海岸のビーチから中央部の山地まで広がっています。大宜味村は人口約3,000人を擁し、百歳以上の住民が多いことから「長寿の村」とも呼ばれます。やんばるに降る大雨は、この村の森にある高さ10メートル以上の「ター滝」に流れ込みます。イノシシから村

の作物を守るために何百年も前に築かれた石垣を、地元のハイキングコースに沿って多くの場所で見ることができます。糸芭蕉というバナナの茎で織った布の一種である芭蕉布の生産は、村の女性たちによって行われている古くからの伝統です。芭蕉布は手間と時間のかかる工程を経て作られます；かつては琉球の王族にも着用され、現在でも高温多湿の環境でも涼しい着用感のために珍重されています。現在日本中で人気のある、小さくて香りのよい柑橘類「シークワサー」は、もともとは大宜味の石灰岩の山々に自生する果物であり、今でもこの村で栽培されています。この村は全国のシークワサー生産量の6割を生産しています。

東

東村はやんばるで一番面積が小さい人口約 1,000 人の村です。やんばるの南東海岸に位置し、近隣の村と同様に、大部分が緑豊かな森林に覆われた山々からなります。東村の慶佐次湾には沖縄本島最大のマングローブ林があります。マングローブ林は、干潮時には陸地が水面に現れ満潮時には陸地が水面下に沈む沿岸の潮間帯に生育し、植物や野生生物の独特な生態系を形成します。森の端に沿った遊歩道や河口を巡るカヤックツアーでは、マングローブを間近で見ることができます。東村の人々は、伝統的に木材、薪、木炭のために森林を伐採し、それらを島の他の森林の少ない地域に輸送するというやんばるの慣習に従いました。この慣習は第二次世界大戦後にも続き、そうした資源は戦争で破壊されたインフラを再建するのに役立ちました。東村は日本最大のパイナップル生産地ですが、マンゴーや野菜などの他

の作物や、パイナップルを食べて育った豚からとれるアグー豚でも知られています。